

横須賀日日新聞 第56号
2016年11月6日
あなたが地域の主人公 19

テーマ：リビングラボ
(高齢社会の助け合い組織)

※許可を得て掲載しています。

あなたが地域の主人公 19

地域の多様な主体が結びついて、何かを生み出した。地域を活性化したい。そんな思いでつながった

「企業・NPO・大学・パートナーシップミーティング」が9月12日、県立保健福祉大学で開かれた。神奈川県と市民活動サポートセンターを運営するYMCAの主催だが、ことしは横須賀市、逗子市、

リビングラボ

高齢社会の助け合い組織

三浦市そして横須賀商工会議所とも連携した。基調講演、事例発表、ワークショップ、交流会と盛りだくさんだが、私が注目したのは「県立保健福祉大学、地域の助け合い組織、大手通信業者」の事例発表。支

援を必要とする地域の高齢者とボランティアを最新の通信技術を使って結ぶ企画だ。その企画を進めるのが、県立保健福祉大学の石井慎一郎教授。三浦市に続いて横須賀市でも「リビングラボ」という仕組みを作り始めた。

「リビングラボ」とは、住民、企業、行政、NPO、大学など地域の多様な主体が参画し、課題の「検討→開発→評価」を繰り返し、新しいシステムを創り上げていくことだ。そして地域の高齢化社会を成り立たせ

ていく仕組みは、地域のボランティア組織がなければ成り立たないという。今回のパートナーは、湘南長沢グリーンハイツの助け合い組織「ゆいの広場」。代表石塚千津子さんにお話を聞いた。「大学の先生や

企業と一緒に新しいことに挑戦するのはとても楽しい。老後もこの団地に安心



10のグループに分かれて行われたワークショップ。メンバーを入れ替えて熱心な話し合いが3回行われた=9月12日、県立保健福祉大

して住めると思うようになりました。仲間がいれば自分たちが住む地域を変えていけるんですね」

横須賀には10数団体の助け合い組織がある。地域の元気なシニアが地域の高齢者を助ける仕組みだ。買い物や庭木の剪定、送迎などを基本的に、ワンコイン程度の有償ボランティアで行っている。この助け合い組織の拡大は全国的な動きで、さわやか福祉財団などが支援体制を呼びかけている。サポートセンターは2年前に財団の

元理事長・堀田力氏の講演を行った関係から財団との連携を模索してきたが、企業や大学との連携は新しい視点となる。

パートナーシップミーティングのハイライトは、メンバーを3度変えて行われる集団お見合い形式のワークショップだ。総合会社の私も毎回わくわくしながら行っている。昨年は約10のマッチング企画が生まれた。ことしはどんな出会いが生まれたのだろうか。報告を待ちわびる仲人のような心境の今日この頃である。(横須賀市立市民活動サポートセンター館長・高橋 亮)